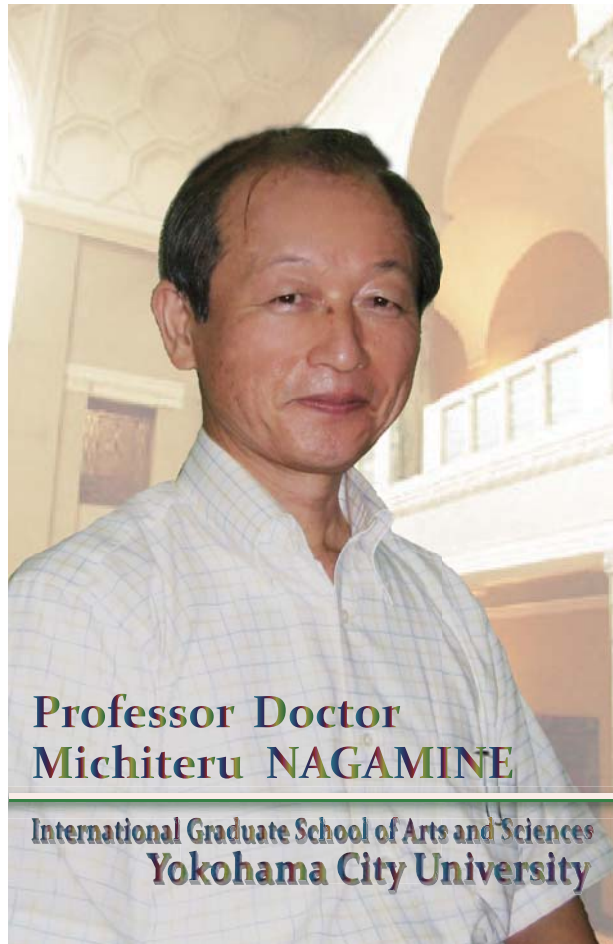


INTERVIEW



Professor Doctor Michiteru NAGAMINE

International Graduate School of Arts and Sciences Yokohama City University

永岑 三千輝 氏

ながみね・みちてる

横浜市立大学大学院国際総合科学研究科・国際総合科学部 教授、博士(経済学)

1946年天津生まれ(香川県)。68年横浜国立大学経済学部経済学科卒業。74年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期修了。75~77年ドイツ連邦共和国ルール大学、85~86年ミュンヘン大学留学。74年立正大学経済学部助手、助教授、教授を経て96年より現職。

専門は政治経済学、経済史。著書に『ホロコーストの力学—独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法—』青木書店(03.8)、『ヨーロッパ統合の社会史-背景・論理・展望-』(共編著)日本経済評論社(04.2)など多数。

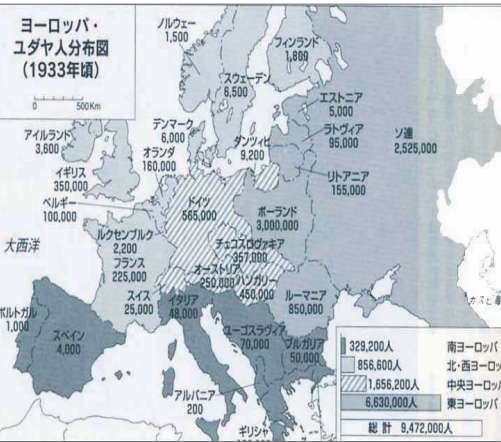
歴史の実相認識を深く広く豊かに

——専門について

◆私は第二次大戦後の46年に天津の引揚者用貨物倉庫で生まれました。幼稚園の時は朝鮮戦争の最中、大学院時代は学生運動によるストライキで研究どころではなくある種の絶望状態を味わいました。学生デモが世界中に飛び火している一方でアメリカのベトナム戦争、ソ連による「ブラハの春」の鎮圧。戦後体制が崩れていく激動に直面し、物心ついてからの疑問であった第二次大戦の経緯を絞り、戦争という現象をリアルに冷徹に掴むことにより平和構築のフアクタ

大学人 話題の組合員

——専門について



△図1: ヨーロッパ・ユダヤ人分布図(1933年頃)



△図2: ポーランド国内の強制収容所



△図3: 「移動殺害トラック」このトラックでヘウムノ焼却施設に輸送中、ユダヤ人たちはガス殺された

士も削り取られました。ドイツが勝者側の状況であった時、発足後間もないポリシェヴィキ政権に屈辱的な講和条件を課しました。ドイツが敗戦国になると、その何倍以上の屈辱的条件が連合国によって課せられたといえます。

勝てば敗者から領土・植民地・賠償金を取り立てる帝国主義の論理こそが日本も含めた世界主要国の考えでした。ヒトラーは、力こそ正義であり、同じことをドイツがして何が悪いのかと世界強国・東方大帝國建設を掲げます。

——いつから強くなったのですか?

◆世界恐慌とともにです。ヒトラーはドイツ民族至上主義の領土拡大政策と反ユダヤ主義を掲げ、生活苦にあえぐ傷ついた国民(特に農民層、手工業者、職員層)の心を見事に掴んでいたのです。

民族自決を大義名分に、オーストリア、チェコの西部にあるスデーテン地域を無血で併合し、ドイツ国民は熱狂します。40年夏までは、電撃戦で勝利します。

——「ホロコースト」とは? 開始時期は?

◆完全に焼き尽くす」という意味です。時期については説は幾つかありますが、ヨーロッパユダヤ人絶滅の大々的な決定という意味では41年12月である、というのが私の見解です。ヨーロッパの中でユダヤ人が非常に多い地域、また、ホロコーストの犠牲者が一番多かったのはポーランドです(図1、2)。第三帝國的領土拡大・占領地拡大によって支配下のユダヤ人も急激に増えたわけです。東方に輸送しようとするのですが、ソ連の反撃でそれどころではありません。41年12月から移動型のガス自動車(図3)でユダヤ人を殺し始めます。死体は最初、塹壕や大きな穴に埋め、焼き尽くすのは後になつてからです。アウシュビッツでもツィクロンB(青酸ガスを使った実験が始まります。42年1月に「ユダヤ人問題の最終解決」を議題とする次官級会議がヴァンゼー(ベルリン郊外)で開催され、これを契機に、ヨーロッパユダヤ人の絶滅収容所への移送・ガス

——没落への転機は?

◆41年6月の対ソ奇襲攻撃からドイツの被害が大きくなります。半年で40万人のソ連兵士を捕虜としますが、ソ連は強く果敢に抵抗を続けました。長く延びた前線に物資を運ぶルート確保する為に、軍隊の背後にある占領地民衆を鎮め、ドイツに協力させなければなりません。ソ連占領地のユダヤ人殺戮(最初の半年で約50万人)が始まります。しかし、これは厳密な意味での「ホロコースト」とは区別しなければなりません。

——ユダヤ人の犠牲者の数は?

◆約600万人です。杉原千畝氏が何千人かにヒザを發行し、助けたことが顕彰されています。確かに日本人にも英雄的な行為をした人々がいました。

——原爆の投下こそ、ホロコーストではないのでしょうか?

◆まさに、そうですね。ただ、原爆についても日本は被害者の観点だけで言っています。その原爆開発(マンハッタン計画)は日本によるアメリカへの攻撃の一挙に本格化しました。これは、ドイツの原爆開発の危機感と結びつきます。実験成功は45年7月16日です。ポツダム宣言で警告されたにも関わらず日本政府は受諾しませんでした。そこで8月6日に広島、9日に長崎へ原爆が投下され一瞬にして全てを焼き尽くしました。降伏を遅らせた点でも、国家の責任というものは大変なものですね。日本は、原爆の悲惨を知る者として、原爆廃止に率先して活動すべき責務があります。過去の悲劇の誤解・歪曲・否定を乗り越え、真実の追究を続け、正確な理解が求められます。【聞き手 情宣部・藤井】